

特集にあたって

Special Issue : Ocean Renewable Energy Trend and Outlook

吉田茂雄*

関東から九州に引っ越して10年が経過したが、改めて、九州は台風や大雨による災害が多いところと感じる。引っ越し後の最初の台風で隣家との間のフェンスと反対側の倉庫が倒れたこと、大雨による川の氾濫で往路の数倍の時間をかけて帰宅したこと、通勤途中の高速道路が土砂崩れで通行止めになり長期間一般道で通勤したことなど、枚挙に暇がない。世界を見ても、昨年この時期、国土面積が日本の2倍あるパキスタンの約1/3が水没したとのニュースには唖然としたが、それ以外でも、水害により、毎年、世界中で多くの人命が失われ、洪水と嵐だけでも、毎年10兆円弱の被害が出るまでになっており、経済活動の方向性自体に首を傾げたくなるような状況である。温暖化対策は喫緊の課題であり、再生可能エネルギーの利用促進の取組みは、人類にとって半永久的で普遍的な課題である。

日本太陽エネルギー学会は、その名が示す太陽エネルギーに留まらず、広く再生可能エネルギー全般を扱っている。特に、四方を海に囲まれた我が国で

は、海洋再生可能エネルギーに大いなる期待が寄せられている。しかし、ほとんどの海洋再生可能エネルギーは、概念としては知られているものの、その動向や展望については、ごく断片的な情報しか持たれていないことが多い。これまでのところ、洋上風力以外の海洋再生可能エネルギーは、実用化・普及しているとは言い難いが、今後の技術革新、あるいは、社会制度の変革など、エネルギーミックスに貢献してゆくために必要なシナリオなど、大いに関心が持たれるところである。

以上のような状況に鑑み、今回、「海洋再生可能エネルギーの動向・展望」の特集を企画した。執筆者はいずれも、国内随一の海洋再生可能エネルギー全般の研究機関である佐賀大学・海洋エネルギー研究所に所属し、各分野の第一線で活躍している研究者である。ご多忙中にもかかわらず、本特集記事の執筆を快くお引き受けいただいた執筆者各位に、心より御礼申し上げます。

* 佐賀大学・海洋エネルギー研究所 教授
九州大学・応用力学研究所 教授